

今 利 一

(市民連合)

脱・原発の方向へ

問 「3・11」以降、日本の原発行政に対する信頼は失った。福島第1原発に限らず全ての原発は、四重・五重の防御システムで安全と推進してきた。これは、経済を優先してきた結果、住民が訴える不安に対して、国自らが神話を作り出し、「安全神話」を信じ込ませた。こうした原発行政に対しての市の認識は。

答 太陽光・木質バイオマス等の再生可能エネルギーを活用し、将来的には原子力発電に頼らないエネルギー需給体制を構築していくことが必要。

エネルギー課の創設と再生可能エネルギーの方向は

問 原子力エネルギーから代替エネルギーへと政策転換が図られる中、推進体制の仕組みを考えなければならぬ。エネルギー課の設置が必要と考える。今年3月に第1次富良野市環境計



小水力発電所 (山梨県都留市)

画では、2020年までCO2削減目標を3万トンとしている。再生エネルギーの方向性は。

答 エネルギー課創設には至らないが、職員配置について総合的に行う。再生可能エネルギーについては、可能なものから積極的に取り組んでいきたい。

被災地支援の実情は

問 富良野から多くの市民ボランティアが被災地支援のために行っている。市の対応は。

答 市は、被災された多くの方々をあたたく迎え入れることも重要。また、多くの方々が被災地支援に行っている。支援の内容について調査し、今後に役立てたい。

石上 孝雄

(民主クラブ)

市道の集中豪雨対策は

問 富良野市における昨年8月26日の豪雨被害以降の長雨では、農業所得の激減等甚大な被害が発生した。その中でも未舗装道路、素掘り側溝の被害も甚大であり、相当の日数で通行止めの箇所もあった。

答 富良野市の山間地域における舗装率は34%であり、特に未舗装道路の被害は、砂利の洗掘・流亡等がくり返されている現状である。未舗装道路の洗掘の対策について伺う。

答 本市における近年の局地的な集中豪雨の発生状況は、時間雨量20ミリを超える降雨が年数回発生し、想定外の雨により未舗装の道路が洗掘され、砂利が流出し、素掘り側溝の埋塞を引き起こすなど、通行に支障をきたしているばかりでなく、排水の流末処理にも影響を及ぼしている。

現在、降雨による未舗装道路



集中豪雨の爪あと

の路面の侵食を未然に防ぐことは困難な状況であるが、モータージェレーダーによる敷きならし等の緊急対応により、早期の交通開放に努めている。

幹線道路以外の市道については、未舗装の道路がまだ相当数あることから、地域の事情や地域の要望により優先順位をつけて、計画的な舗装を実施しているところである。

問 素掘り側溝の洗掘・埋塞の対策は。

答 道路側溝の整備については、近年の降雨による埋塞、洗掘等被害が多発している箇所の現地調査を行い、排水対策を進めており、今後においても排水被害の防止対策を図っていきたい。